

宮農だより

金沢営農協議会
J A 金沢中央
石川県農業共済組合

7月のポイント～高品質金沢産米づくり運動10の推進技術～

- 畦畔・農道等は、7月上旬までに追加除草
- 高温登熟、生育に対応した施肥体系
- 中干し後～出穂までの約1か月の飽水管理
- 出穂～刈取直前までの1か月以上の飽水管理(コシヒカリ)

平年出穂期 **コシヒカリ…7月26日頃**（圃場の1/2以上が出穂した時）
地域や圃場、天候によって出穂日は前後します。

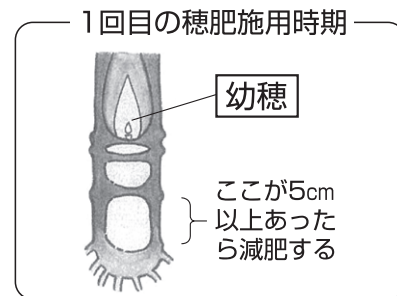
乳白粒防止のためのコシヒカリの穂肥施用

ポイント

1. 1回目の穂肥は出穂16日前に適量施用する。

1回目の穂肥
施用時期の確認

幼穂長：15～20ミリ
葉色：3.5（葉色板）



2. 施用時期は必ず幼穂の伸長と葉色、稲型を確認して施用する。
3. 2回目の穂肥は遅くとも出穂の7日前までに施用する。

穂肥施用時期の目安と施用量

(10a当たり)

区分 品種名	肥料名	1回目		2回目	
		施用時期	施用量	施用時期	施用量
コシヒカリ	BB有機入追肥526号 (N:15-P:2.4-K:6)	7月10日頃	13kg	7月18日頃	17kg

◎市街地では上記の2～3日前を目安とします。

◎1回目の穂肥を減量した場合でも2回目は必ず基準量を施用する。

稲型診断パターン

A型…葉色が薄い（葉色3.5）
（標準） 葉が立ち、下葉の乱れがない



写真：A型の例

基準通り施用
（茎数が多い場合は1回目の施用量を3kg程度減らす）

B型…葉色がやや濃い（葉色4.0）
株が出来過ぎ、らちが見えない
下葉の乱れがみられる

1回目の施用時期を3日程度遅らせ、
施用量を基準量の2～3割程度減らす
2回目は、基準量を施用する

C型…葉色が濃い（葉色4.5）
葉の乱れが目立つ

1回目の穂肥を施用しない
2回目は、草丈・葉色を見て施用量を判断する

（B型、C型の稲型ではすでに下位節間が伸びてきています。倒伏に要注意！！）

今後の水管理

中干し後～刈り取り5日前までの間は、**飽水管理** とする。

- 平坦地域の飽水管理の目安
ゆめみづほ 8月15日頃まで
コシヒカリ 8月30日頃まで

飽水管理とは…こまめに通水して、常に土壤水分を保つような水管理をすること

中干し後から出穂までは、約1か月間（コシヒカリ）の飽水管理！！

J A金沢中央のホームページでも宮農だよりを掲載しております。「J A金沢中央」で検索して下さい。

病害虫防除

斑点米を発生させるカメムシ類が多く の 地点で確認されています。

基 幹 防 除

(平 年 出 穂 期 : ゆ め み づ ほ 7 月 1 7 日 頃 、 コ シ ヒ カ リ 7 月 2 6 日 頃)

◆粒剤散布の場合 (市街地など粉剤散布ができない圃場)

	防 除 時 期		薬 剤 名 ・ 適 用 病 害 虫	散 布 量 ・ 収 穫 前 使 用 日 数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月3～7日 (出穂前14～10日)	7月14～18日 (出穂前14～10日)	イモチエースタークル粒剤 いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類 * 使用回数は1回です。	3kg/10a 収穫35日前まで (散布後35日以内の収穫不可)
2回目	7月18～22日 (出穂後3～7日)	7月29～8月2日 (出穂後3～7日)	スタークル粒剤または スタークル豆つぶ カメムシ類、ツマグロヨコバイ、ウンカ類	粒 剤 : 3kg/10a 豆つぶ : 250g/10a 収穫7日前まで

※粒剤は、湛水状態で散布し、3～4日間は湛水状態を保つ。

※スタークル粒剤での防除は、「出穂期～穂が出揃った頃」が最適です。例年カメムシが多い場合は、浅水状態（1～3cm程度）で散布して下さい。

◆粉剤散布の場合 カメムシ類に効果的な防除は、出穂7～10日後頃と、更にその7日後頃の散布です。

	防 除 時 期		薬 剤 名 ・ 適 用 病 害 虫	散 布 量 ・ 収 穫 前 使 用 日 数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月10～14日 (出穂前7～3日)	7月19～23日 (出穂前7～3日)	ビームトレモンセレン粉剤 DL いもち病、紋枯病、カメムシ類、 ツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ	4kg/10a 収穫21日前まで
2回目	7月24～27日 (出穂後7～10日)	8月2～5日 (出穂後7～10日)	ラブサイドスタークル粉剤 DL いもち病、カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ、イナゴ類	4kg/10a 収穫7日前まで
3回目	7月31日～8月3日 (出穂後14～17日)	8月9～12日 (出穂後14～17日)	スタークル粉剤 DL カメムシ類、ツマグロヨコバイ、 ウンカ類、イナゴ類	3kg/10a 収穫7日前まで

※粉剤散布後3時間程度降雨がなければ、効果があります。

※防除は稲の株もとにもいきわたるように散布して下さい。

随 時 防 除

稲こうじ病が前年発生した圃場では菌の密度を下げるため、Zボルドー粉剤DLを散布して下さい。

対 象 病 害 虫	薬 剤 名	散 布 量	防除時期 (収穫前使用日数)
稲 こ う じ 病	Zボルドー粉剤DL	4kg/10a	出穂前20～10日 (出穂10日前まで)
稲こうじ病・紋枯病	モンガリット粒剤	3kg/10a	出穂前21～14日 (収穫30日前まで)
紋 枯 病	リンバー粒剤	3kg/10a	出穂前14～10日 (収穫30日前まで)
コブノメイガ	トレボン粉剤DL	4kg/10a	多 発 時 (収穫7日前まで)

※Zボルドー粉剤DLは高温時に散布すると薬害が出やすいので、注意してください。

金沢管内の生育調査結果 (6月18日調査)

	ゆめみづほ				コシヒカリ			
	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)
本年	51.9	32.9	626	10.6	51.8	36.5	603	9.9
前年	42.5	28.2	539	9.7	45.1	37.7	605	9.2
平年	42.6	29.5	580	9.8	45.6	28.1	516	9.3

生育概況 ・ 草丈は、ゆめみづほ、コシヒカリともに平年並。

 ・ 茎数は、ゆめみづほで平年並、コシヒカリで平年に比べやや多い。

----- 高温多湿時の熱中症に注意しましょう!! -----

JA金沢中央公式Instagramでも営農情報を発信しています。
フォローをお願いします!!



※農薬は使用時期・量を厳守し、正しく使用しましょう。農薬の飛散に注意しましょう。

※7月上旬まで畦畔や農道の除草を徹底しましょう！刈取った雑草は用排水路に入らないよう注意！